

春 告 草

第 144 号 令和元年 6 月 5 日 進路指導部発行

卒業生（4 期生）から後輩へ 在卒懇で経験を伝える

5月25日(土)の午後に今年の卒業生(4期生)25名を招いて「在卒懇(在校生卒業生進学懇談会)」が開催されました。在卒懇は「卒業生による大学入試研究会」とも呼ばれ、これから大学受験を迎える6年生(5年生は希望者)に対して、大学に通う卒業生が受験勉強の方法や大学選び、学部学科選びについて、体験に基づいてアドバイスをするという、先輩から後輩へ引き継がれてきた伝統的な進路行事です。受験勉強については、最新の情報や方法論に基づく話を聞くことができ、これから受験勉強を迎える在校生にとっては、大変有意義な時間になったようです。

当日は、A(人文・外国語・国際・教養)・B(法律・政治・社会学)・C(経済・経営・商学)・D(教育・家政・体育・芸術)・E(理学・工学)・F(生物・農学・医学・薬学・看護)の6会場にわかれ、卒業生との懇談が行われました。どの会場も在校生から質問が多くあり、熱心に答える卒業生の姿が見られました。卒業生の話の内容は主に「受験勉強の方法について(いつまでになにをやればよいか)」「志望大学や学部・学科をどのようにして決めたのか」「大学生活の様子について」「受験に対するモチベーションの保ち方」「受験勉強中の息抜きの仕方」「夏休みにやっておくべきこと」などでした。また、在校生からは「参考書・問題集は何を使っていましたか?」「赤本はいつからやりましたか?」「第1志望に落ちたらどうしましたか?」「息抜きはどうやっていましたか?」等々の質問がありました。卒業後の進路や受験勉強の仕方は、一人ひとり異なり、何が正解かは一概には言えませんが、先輩たちの体験談を聞くことによって自分自身の考えを深め、進むべき道、取るべき方法の意思決定の参考になればと思います。

■後輩へのメッセージ(在校生から提出されたワークシートより抜粋)

受験勉強について

自分のできない教科から(苦手をつぶす)/自分ができないところをまとめるノート/勉強法は人により違う/やはりどれだけやったかが結果につながる/朝や休み時間の細かな時間の使い方を大切に/入試直前でも単語や基礎知識をおろそかにしない/世界史で勉強あきたら資料集/教科書を読む/やはり英語が重要/論文は何本もやるのではなく、一本を何回も添削してもらう/一度やった長文でも何度も読み返す/同じ参考書を使い続ける

夏休みの使い方・過ごし方について

夏はそれまでにやってきたことをしっかり自分のものにする/具体的な目標・スケジュールを立てる

模試の利用について

模試の復習はガッツリやる

気持ち

やる気が下がったときは結果が目に見えるものから/生活リズムをしっかり整え、自分のペースでやる/あせらなくても大丈夫だから落ち着いて着実に/不安になる時期がくるのはあたりまえ/最後まで貫く!あきらめない!/くさらないことが大事/今の自分の成績でも十分伸びる可能性があると思えば自信が持てた。焦らず堅実に取り組めば大丈夫/ゲームなんてせず勉強しようと思った/前向きでいること/受験は運だ(徳を積み)

その他

第1志望と自分の今の立ち位置との距離を確実に把握する/周りに流されない/意外と後期も受かるのかなとポジティブに思った/問題との出会いを大切にすること/普段の授業をよく聞いて各考査を大切にすること/センター1日目と2日目の間に採点は絶対にしない/下調べをした上での計画が大切/朝から勉強/とりあえず今は基礎!!/寝る前のルーティーンをつくる

当日は活発に質問も出て、いろいろと分からないことが聴けたのではないかな?4年生の参加もありました。その積極的な姿勢は Good! これからの学校生活に活かしていきたいと思います。



■一緒に頑張っている仲間と共に

受験勉強は長く、苦しく、とても大変です。合格したい気持ちが強くなればなるほど、入試が近づくにつれて、不安になり、勉強が手につかなくなります。だから、一緒に頑張り、励まし、高めあう仲間が必要です。不安な気持ちになったとき、勉強が手につかなくなったときは、教室で、自習室で、図書館で勉強するとよいでしょう。きっと、同じ空間に頑張っている人がいる　というだけで頑張れる自分がいると思います。

最後に、在卒懇を終えた在校生の感想を紹介します。受験のその先に光が見えた気がします。

『自分の興味あることをずっと学べる大学生活がすごく楽しみのになった』

データサイエンスが人気急騰の兆し？

昨年電通大を訪問したとき、先端ロボティクス研究室を見学させていただいた。そこでは、癌や結石の位置を高精度に抽出、追従、モニタリングしながらピンポイントに超音波を照射する診断・治療ロボット(装置)を研究していた。電通大で医療分野の研究という意外な点に驚いたのだが、データがデジタル化された時点で、いろいろなモノが電子情報分野での研究対象となるとの説明を聞いて納得した。医療現場でのデジタルデータの活用に止まらず、いわゆるビッグデータの研究、活用が目まぐるしく行われている。一昨年開設された滋賀大データサイエンス(以下DS)学部につき、昨年は横浜市立大、今年は武蔵野大にDS学部が誕生した。DS学部についての情報を提供してみたい。

滋賀大、武蔵野大で志願者急増

今年度入試において最も志願者数が増えた大学は国公立大では滋賀大、私立大では武蔵野大である。滋賀大ではDS学部が前年比5割増しの志願者を集め、国公立大のトップに躍り出た。一方の武蔵野大は定員70名に対し志願者は1767人と25倍超の志願者を集めた。横浜市立大は大学全体で-48名の微減となった。DS学部初年度の高倍率(定員60名に対し、志願者426名)の反動が大きかったが、それでも249名の志願者を集め、4倍超の倍率だった。

データサイエンスとは？

情報通信とデータ蓄積技術の急速な発展により、現代社会では大量のデータを入手することが可能になった。いわゆる「ビッグデータ」だ。日々生まれる膨大なデータを整理・分析し、ビジネス、医療、教育、行政など様々な分野への活用を研究する学問がデータサイエンスである。そして、これに関わり価値ある知見を抽出していくのがデータサイエンティストだ。政府が3月に発表した有識者提案「AI戦略」においても、AI・数理・データサイエンス教育を今後充実させていく施策が盛り込まれている。

DSの基礎は統計学だが、これを専門に研究する学部が日本にはなく、専門家は経済学部や工学部、理学部などに分散している。このことがDS人材の育成がアメリカなどに比べて著しく遅れている要因とも指摘されてきた。こういった社会的需要がデータサイエンス学部の誕生に結びついたと言えるだろう。

文理融合型の学問

DS人材には、データを加工・処理し、分析・解析する理系的なスキルと、それらを使って実際の課題解決に結びつけていく文系的な「ビジネス力」が必要とされる。文理融合型の学問のため、既設3大学におけるDSへのアプローチの仕方には違いがみられる。対称的なのは、横浜市立大と武蔵野大。横市は理系的スキルを最初からがっちり積み上げることを狙う。入試でも数学の配点は高く、入学者の8割超が理系である。図表データや文章などの情報についての論説能力を問う総合問題も課されるなど、DS人材の発掘・育成に意欲的だ。武蔵野大は「数学ができないとダメ」との思い込みであきらめて欲しくないと、入試に数学は必須ではなく、門戸を広げている。入学者のうち理系は7割程度である。

各大学ともカリキュラムの特徴は課題解決学習を重視している。データが生まれる現場での実践活動だ。踊る大捜査線風に言うと「データは会議室で生まれるんじゃない！現場で生まれるんだ！！」ということだ。

右表には滋賀大DS学部の履修パターンを示した。「データエンジニア型」「データアナリスト型」「データコンサルタント型」と学生の関心や希望する進路に合わせた履修が可能になっている。

滋賀大学データサイエンス学部 3つの履修型

履修型	学びの方向	予想される進路
データエンジニア型	情報工学・コンピュータへの関心が高く、アルゴリズムやアプリケーションの最先端をより深く学びたい	IT企業、シンクタンク、製薬企業、医療機関、企業のデータ分析部門、大学院など
データアナリスト型	統計学・数学への関心が高く、データ解析の最先端をより深く学びたい	経営コンサルタント、シンクタンク、製薬企業、医療機関、企業の財務経理/マーケティング/生産管理/データ分析部門、大学院など
データコンサルタント型	データサイエンスの技術を領域分野の現実の問題に応用したい	企業の財務経理/経営企画/マーケティング/生産管理部門、国、地方自治体など

高校教員向けの大学説明会レポートをこれからしばらくの間、連載していきます。まず、第1回目は東京経済大学です。

東京経済大学は1900年に開校した大倉商業学校を起源とする、来年創立120年を迎える大学です。明治から大正期にかけて日本の近代産業を発展させた実業家大倉喜八郎氏により創設されました。ホテルオークラの大倉といった方がピンとくるでしょうか。大倉氏が手掛けた企業も多く、大成建設の大成も氏の戒名からとったものです。旧赤坂葵町（現虎ノ門2丁目）から国分寺へは1946年に移転し、大学への昇格は1949年です。大倉時代より経済人を多く輩出し、「実学教育」で高い評価を得ています。

学部・学科について

■経済学部

大学開学時より続く同大の看板学部。経済学科と国際経済学科の2学科からなるが、学生募集は一括で行う。3年次に2学科に分かれる。

■経営学部

開学時の経済学部商学科が改組されて経営学部となった。同大では2番目に古い学部。経営学科と流通マーケティング学科の2学科構成だが、募集は一括で行う。2年次に2学科に分かれる。

■コミュニケーション学部

日本で最も古いコミュニケーション学部で開設は1995年である。学科はコミュニケーション学科のみで、2年次よりメディアコース、企業コース、グローバルコースの3コースに分かれる。英語のスキルを高めることは勿論であるが、表現系ワークショップ、調査系ワークショップなどコミュニケーションスキルを高めるカリキュラムが用意されている。

■現代法学科

同大の中では最も新しい学部で2000年の開設である。学科は現代法学科の1学科のみである。2年次より、総合法、公共政策、ビジネス法、消費者法、環境法、福祉法の各プログラムの中から1つを選択する。少人数ゼミによるきめ細かな指導と法律専門職・公務員志望者に対する多角的なサポート体制が強み。

■キャリアデザインプログラム

上記4学部の学生募集と分けて50名(男子23名、女子27名)をキャリアデザインプログラム枠として募集する。1年次は学部入門科目として、経済、経営、コミュニケーション、現代法の各学部の基礎科目を学び、2年次より4学部から1学部を選択し所属する。学部横断履修科目として他学部の科目履修もできるようカリキュラムが設計されている。

学部教育・学生支援について

「大学らしい大学を目指す」をモットーとして「アカデミズムに裏打ちされた実学教育」を実現している。教育システムは右図に示すとおり3層構造になっていて、基礎から応用まで段階的に学べるよう設計されている。ゼミには特に力を入れていて、2年生から4年生までが一緒にゼミを行う。経済、経営の両学部のアドバンストプログラムには、会計、法律、金融、PRの資格取得に向けたプログラムと国際・語学力アップに向けたグローバルキャリア、英語の各プログラムが用意されている。

高度な資格や語学力を習得

アドバンスト
プログラム

専門分野を学ぶ
学部・学科教育

社会人としての基礎力を身に付ける
ベーシックプログラム

キャリアサポート、就職支援

学生の資格取得に向けて大学の支援体制は厚く、キャリアサポートコース（CSC）を用意している。学内でダブルスクールを実現し、受講料についても大学のサポートがある。大学入学時より明確なキャリアプランをえがき、卒業までの資格取得を目指す学生も多い。

経営学部3年のTさん(都立小金井北高卒)

1年次4月 CSC日商簿記3級講座受講

1年次6月 3級合格。CSC日商簿記2級講座を受講

1年次11月 会計プロフェッショナルプログラムに所属

3年次5月 公認会計士短答式試験に合格

3年次11月 公認会計士論文式試験の勉強中

(大学案内Space2020より)

奨学金・特待生制度

大学独自の奨学金制度(給付型・返済不要)は3種類用意されている。安城記念奨学金は資格取得、大学院進学を目指す学生援を目的とする奨学金である。

また、正課授業外での活動実績者表彰制度(TKU進一層賞)もあり、学芸、資格取得、課外活動、ゼミ学外活動の各部門において優れた実績を上げた学生を表彰している。

特待生制度は、一般入試・センター利用入試の合格者で特に成績優秀な学生に対して1年次授業料が免除される。2年次以降は前年終了時の学業成績が所定の基準を満たせば、最長4年間継続が可能となるほか、CSC講座も無料で受講できる。

入試制度および入試結果について

一般入試とセンター利用入試はそれぞれ前期・後期の2回ずつ設定されている。試験科目は2教科型と3教科型があるが、一般試験前期のみベスト2型(3教科を受験し、高得点2教科で合否判定)が設定されている。各試験について特待生枠が確保されていて、学力上位層の入学者が増えている状況があるという。

入試科目は英語、国語を軸に数学、地歴・公民から選択となるが、センター利用入試は理科選択も可能である。詳細は各自で確認しておきましょう。

試験結果については、センター利用入試の合格者最低得点率を図示しました。今年度はセンター試験の平均点が上がり、昨年度までに比べて得点率は上がっている。学部により若干の違いはあるが、合格のためには8割をマークしたいところだ。優秀な学生を確保したいという方針もあり、志願者数は増加している。本校からの受験者は多くはないが、伝統ある社会科学系総合大学で、真面目な学生が多いと評価されている。GMARCHあたりを第一志望にする受験生の押さえとして受験するケースが多いのが現状であるが、資格取得には手厚いサポートが受けられる大学である。

東京経済大学奨学金 月額3万円
東京経済大学奨友会大学奨学金 月額3万5千円
安城記念奨学金 最高50万円程度

現代法学部4年のAさん(都立立川高卒)
東経大は入試成績上位者や学業成績優秀者への特待生制度や奨学金が充実しており、安心して勉強に励む環境が用意されています。……(中略)……東経大に入学して法学を学ぶ面白さに触れ、憲法のゼミ活動を通して物事の多面性を知り、争点を整理して議論を行う姿勢が身につきました。(後略)
大学案内Space2020より抜粋

一般入試・前期

学部	募集人員	特待生
経済学部	245名	入試成績上位35位まで
経営学部	255名	入試成績上位35位まで
コミュニケーション学部	80名	入試成績上位10位まで
現代法学部	100名	入試成績上位10位まで
キャリアデザインプログラム	25名	—

一般入試・後期

学部	募集人員	特待生
経済学部	12名	入試成績上位5位まで (共通枠)
経営学部	12名	
コミュニケーション学部	7名	
現代法学部	7名	
キャリアデザインプログラム	若干名	

センター利用入試・前期

学部	募集人員	特待生
経済学部	50名	入試成績上位25位まで
経営学部	45名	入試成績上位25位まで
コミュニケーション学部	15名	入試成績上位5位まで
現代法学部	20名	入試成績上位5位まで
キャリアデザインプログラム	5名	—

センター利用入試・後期

学部	募集人員	特待生
経済学部	8名	入試成績上位5位まで (共通枠)
経営学部	8名	
コミュニケーション学部	5名	
現代法学部	5名	
キャリアデザインプログラム	若干名	

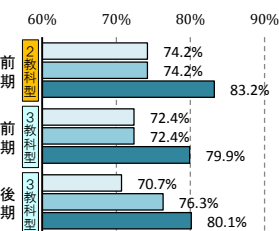
学生支援という点では、父母の会が幅広く学生生活をサポートしている。ニュースなどでも取り上げられたことがあるが、大学生協と協力して「100円朝食」を授業日に提供している。



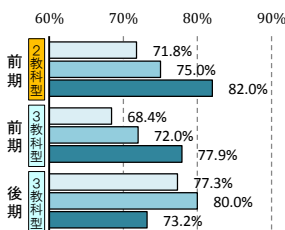
センター試験入試合格者最低得点率

2017年度
2018年度
2019年度

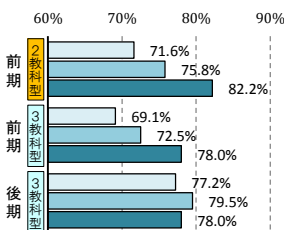
コミュニケーション学部



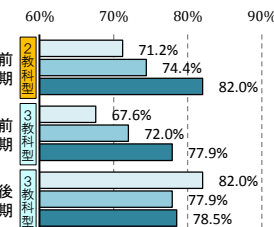
経済学部



経営学部



現代法学部



キャリアデザインプログラム

